

松本市島内遺跡群

緊急発掘調査報告書

1984. 3

長野県中信土地改良事務所
松本市教育委員会

松本市島内遺跡群

——緊急発掘調査報告書——

1984. 3

長野県中信土地改良事務所
松本市教育委員会

序

この遺跡は、昭和58年度に着工しました県営ほ場整備事業島内地区にあり、当初から埋蔵文化財の存在が確認されている遺跡であります。

本年度の区画整理工事の着工にあたり、県・市教育委員会の皆様と事前打ち合せにより、調査方法・調査期間・費用負担等について、再三、御検討をいただき、発掘調査による記録保存の方針を決定しました。

調査の実施は、松本市教育委員に、全面的に、委託を受けていただくことになりました。その結果、中世から近世にかけての陶磁器・古銭等の出土品が発掘され、島内地区の歴史を探るうえで貴重な資料となることだと思います。

このように、発掘調査が計画どおり完了できることは、県・市教育委員会の適切な御指導とお忙しい中、調査団に参画され、発掘調査にあたられた皆様の御尽力のたまものと感謝しております。

なお、遺跡発掘にあたり、島内土地改良区の役員、地元関係者の御協力と御理解により、支障なく調査が行われましたことに対して、あわせて謝意を申し上げます。

昭和59年3月

長野県中信土地改良事務所長 丸山仁志

序

島内遺跡群は国道147号線、国鉄大糸線をはさんで、北は平瀬から南は高松までの広い範囲として捉えられている遺跡で、地元研究者の手によって昔から土器類等が表採されていましたが、本格的な発掘調査の行われたことのない地域でもありました。

この島内遺跡群の周辺で本年度から県営ほ場整備事業が行われることとなり、長野県中信土地改良事務所から事前の緊急発掘調査の実施が依頼されました。今回の調査はこの依頼をうけて松本市教育委員会が行ったもので、島内地区に初めて考古学調査のメスが入れられたことにもなります。

調査は、教育委員会職員を中心に中信地区的考古学研究者の先生方に調査員をお願いして組織した調査団により、寒風吹きすさぶ昭和58年11月から12月にわたって行われ、地元島内史談会の全面的な協力を得て無事終了することができました。調査の結果は当初の予想と異なり、中世から近世にかけて存在したと推定される堂跡に関連する石積みが発見されただけでしたが、この石積みが発見された土地は「古見堂」という小字名をもっており、現代にまで伝わる地名がその土地の歴史もまた伝えていることが実証されるという貴重な例となりました。

本書に紹介する今回の調査とその成果が、今後の文化財保護と地域の歴史の解明とに僅かばかりでも役立つことができれば幸甚に存じます。

最後に調査にあたりまして多大な御理解を寄せて頂きました地元島内土地改良区、常に御援助、御協力を頂いた有賀一猛会長を中心とする島内史談会の皆様、島内公民館、島内出張所の皆様に心からなる謝意を表して序といたします。

昭和59年3月

松本市教育委員会

教育長 中 島 俊 彦

例　　言

- 1 本書は松本市島内に所在する、島内遺跡群の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、松本市が長野県中信土地改良事務所より委託をうけ、松本市教育委員会が行ったものである。
- 3 本調査における発掘作業は昭和58年11月1日より12月20日にかけて、また整理作業は昭和59年2月から3月にかけて実施した。
- 4 本書の執筆は、直井雅尚が中心となり、小口妙子、山田真一が、また編集については事務局が行った。
- 5 第2章第1節及び第4章の執筆にあたっては、それぞれ太田守夫氏、大久保知巳氏の御教示を頂いた。記して謝意を表する。
- 6 本書は遺物整理と本書作成のための期間が短く、調査の概略を記すにとどまり、遺跡をめぐる歴史的環境には全く触れられなかった。この点については次の機会に何らかの形で触れたいと考えている。
- 7 出土遺物及び図類は松本市教育委員会が保管している。

目 次

第1章 調査経過

第1節 調査に至るまでの経緯と文書記録	3
第2節 調査体制	3
第3節 調査地の位置	5
第4節 作業日誌	5

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の立地と地理的環境	9
第2節 周辺遺跡	9

第3章 調査結果

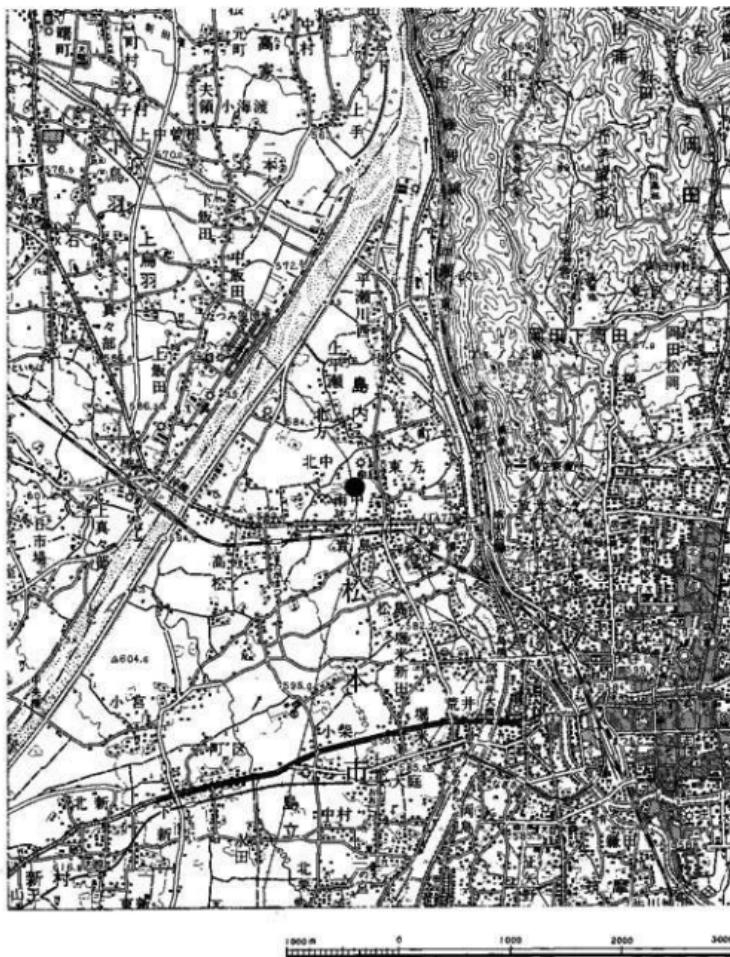
第1節 調査の概要	11
第2節 造構	15
第3節 遺物	16

第4章 調査のまとめ

挿 図・図 版 目 次

第1図 調査地の位置 (1)	2
第2図 調査地の位置 (2)	4
第3図 試掘グリット土層柱状圖	7
第4図 主な周辺遺跡	8
第5図 第1地点全体図	12
第6図 第3地点全体図	13
第7図 遺物実測図	17

第1図版 調査風景	21
第2図版 調査風景	22
第3図版 調査風景	23
第4図版 第3地点造構	24



第1図 調査地の位置(1)

第1章 調査経過

第1節 調査に至るまでの経緯と文書記録

昭和57年8月3日埋蔵文化財保護協議を実施。出席者県文化課課長指導主事、中信土地改良事務所清水係長、岩崎、岩瀬主事。市耕地課農地主事、市教委幹部。市教育委員会室で説明のあと現地へ行く。島内地区の他島立、寺、神林地区も協議する。

- 昭和58年1月8日、昭和58年度文化財関係補助事業計画書（提出）
9月20日 昭和58年度文化財関係国庫補助事業の内定（通知）
9月30日 昭和58年度文化財関係国庫補助事業補助金交付申請書（提出）
10月7日 昭和58年度県営は場整備事業島内遺跡群遺跡埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約を結ぶ。その概要是現場における発掘調査は12月10日までに完了するものとする。業務に要する費用として中信土地改良事務所は3,482,500円を市に支払うこと、発掘調査計画書には発掘調査の目的及び概要で、開発事業者は場整備事業に先立ち700m以上を発掘調査し記録保存をかかる。調査報告書は昭和59年3月31日までに刊行するものとする。
作業工賃では発掘作業18日、整理作業18H、合計36H、発掘調査委託費は全額では4,500,000円、うち文化財農家負担額減額が1,017,500円である。
10月20日 岸蔵文化財発掘調査会議（提出）
12月1日 昭和58年度国宝重要文化財等保存整備費の交付決定について（通知）
12月2日 昭和58年度文化財保護事業費補助金（県費）交付申請書（提出）
12月3日 昭和58年度文化財保護事業費補助金の内示について（通知）
12月13日 昭和58年度文化財保護事業費補助金の交付決定について（通知）
12月21日 昭和58年度県営は場整備事業に伴う松本市木下前田遺跡3遺跡の発掘調査費の変更について（提出）
昭和59年1月7日 昭和58年度県営は場整備事業に伴う松本市木下前田遺跡3遺跡の発掘調査費の変更について（通知）
1月26日 昭和58年度文化財関係国庫補助事業状況報告書の提出について
2月10日 昭和58年度国庫補助事業に係る報告書刊行状況について（報告）

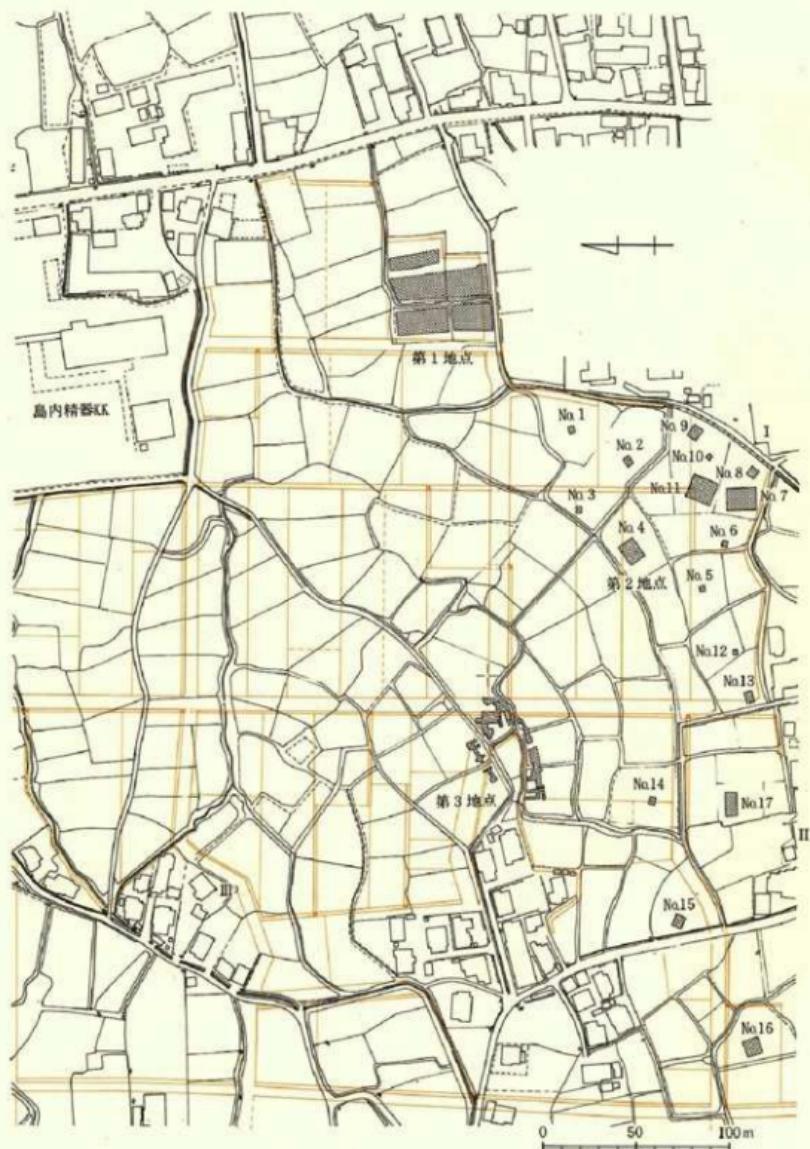
第2節 調査体制

団長：中島俊彦（教育長） 指定者：神沢昌二郎

調査員、調査費補助：大久保知巳、山田瑞穂、西沢寿光、三村篤、横田作成、降旗俊行、百瀬新治、山本紀之、太田守夫、森義直、瀬川長広、吉沢西巳、大出六郎、三沢元太郎、井口千佳、伊藤史彦、小口妙子、三村竜一

協力者：清水真理、犬飼啓司、有賀一猛、高山庄司、市之瀬完一、塙田佳忠、胡桃沢勇十、高山村澄、白井友江、犬飼与四郎、犬飼亮昌、矢島正茂、高山元衛、中野良連、長岡祐子、横山英雄、牧垣源勝、辻沢伝、高島信一、宇留質久雄、高橋委一郎、倉科由加理、滝沢智恵子、山下泰永、山田真一

事務局：田堂明（社会教育課長）、神沢昌二郎（文化係長）、百瀬清（主事）、熊谷康治（主事）、真井雅尚（事務員）、高桑俊雄（嘱託）



第2図 調査地の位置(2)

第3節 調査地の位置

調査地は松本市大字島内字巾上、丹後塚、堂前及び古御堂の一帯に位置する。調査地各地区的測量の基準杭は第3地点東に設置した(第2図中央、黒色の十字印)。杭の座標はX=27535.1435、Y=-50128.2674、である。この基準杭を中心になると、西南西180m付近から島内小学校の敷地が、また南東220m付近から島内精器K.K.の敷地がはじまっている。不動点への方向と距離は、第2図IへN139°E・190.5m、IIへN154.5°W・182.5m、IIIへN38.5°W・83m、中央自動車道STA273へN63°41'44"W・283.9861m、STA270へ、N123°30'15"W・315.0921mである。写真の第一回版1・4・6、第二回版3、第三回版3・4・6の背景の建物が島内精器(S E I K O の看板が目印)、同じく第二回版4、第四回版1の背景が島内小学校、第一回版5の背景が南中地区公民館である。

第4節 作業日誌

- 11月1日(火) 晴
ブルドーザーとバックホーにより表土剥ぎ。 市教委職員1名
- 11月2日(水) 晴
第2地点、バックホーにより表土剥ぎ開始。試掘溝を入れる。 市教委職員1名
- 11月4日(金) 曇
作業員が入る。第1地点の排土整理を行う。 作業員15名 調査員1名 市教委職員1名
- 11月5日(土) 曇
第1地点、III、IV区の排土整理を行う。 作業員5名 市教委職員1名
- 11月7日(月) 曇時々晴
第1地点、IV区上部検出、III、IV区全体測量、I区排土整理。溝1掘り下げ。 作業員7名 市教委職員1名
- 11月8日(火) 晴
No14・15・16掘り下げ。第1地点全体測量。No17・18・19・20・21を設定。 作業員6名 調査員1名 市教委職員1名
- 11月9日(水) 晴
No17・18・19掘り下げ。No18より礫が出たため拡張。第1地点全体測量。第1地点II区トレントを入れる。 作業員6名 調査員1名 市教委職員1名
- 11月10日(木) 曇時々雨
No18拡張、掘り下げ。礫群の洗い出し。礫群と認定。周辺を第3地点とする。 作業員6名 調査員1名 市教委職員1名
- 11月11日(金) 曙時々曇
引き続き第3地点の拡張、礫面の洗い出し。 作業員5名 調査員1名 市教委職員1名
- 11月12日(土) 曙後雨
第3地点集石、排土整理、礫面の洗い出し。 作業員4名 市教委職員1名
- 11月14日(月) 晴
第3地点集石、東へ拡張。 作業員6名 市教委職員1名
- 11月15日(火) 晴
第3地点北のトレントをあける。集石ができる。 作業員5名 調査員1名 市教委職員1名
- 11月16日(水) 晴
中央道センター杭より基準杭をひく。第3地点東の田にトレントを入れる。 作業員5名 市教委職員1名
- 11月17日(木) 曙時々晴
集石の東の境を確認するため石の洗い出し。 作業員7名 調査員1名 市教委職員1名
- 11月18日(金) 晴
引き続き第3地点集石の洗い出し。 作業員8名 市教委職員1名
- 11月19日(土) 晴
第3地点東、石の洗い出し。グリットを組んで掘り下げ。 作業員5名 市教委職員1名

11月21日（月） 晴
第3地点東、グリット内掘り下げ。石の洗い出し。実測開始。 作業員8名 市教委職員1名

11月22日（火） 曇
第3地点東、グリット内掘り下げ。石の洗い出し。実測。 作業員7名 調査員1名 市教委職員1名

11月24日（木） 南後晴
午前中、集石の実測、作業は中止。午後、第3地点東、グリット掘り下げ、石の洗い出し。第3地点北東精会館の材らしきものが出る。 作業員4名 調査員2名 市教委職員1名

11月25日（金） 小雨後曇
第3地点北側の集石ラインの追求。 作業員6名 調査員1名

11月26日（土） 曇時々曇
第3地点東、拡張、掘り下げ。本日をもって掘り下げ終了。 作業員7名 市教委職員1名

11月28日（月） 曙時々曇
本日より測量に専念。周辺の地層調査。 作業員1名 調査員1名 市教委職員1名

11月29日（火） 晴
集石の実測。 作業員1名 市教委職員1名

11月30日（水） 雨後曇
引き続き集石実測。 作業員1名 市教委職員1名

12月1日（木） 晴
引き続き集石実測。 作業員1名 市教委職員1名

12月2日（金） 晴
引き続き集石実測。 作業員1名 市教委職員1名

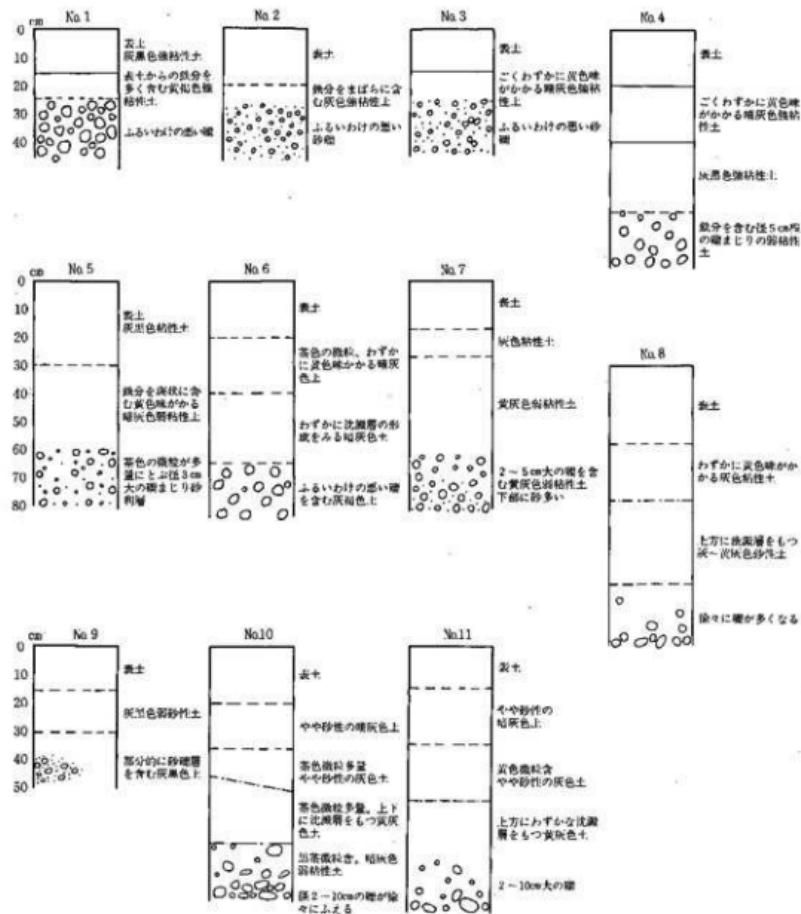
12月3日（土） 曙
引き続き集石実測。 作業員1名 市教委職員1名

12月4日（日） 晴
引き続き集石実測。 作業員2名 市教委職員1名

12月5日（月） 晴
引き続き集石実測。 作業員1名 市教委職員1名

12月6日（火） 晴
引き続き集石実測。 作業員1名

12月20日（火） 晴
資材撤収。



第3図 試掘グリッド上層柱状図



- | | |
|----------|--------------|
| 1. 鳥内遺跡群 | 6. 山山老松田遺跡 |
| 2. 平瀬遺跡 | 7. 田溝・山田古窯址群 |
| 3. 法住寺跡 | 8. 城山廬遺跡 |
| 4. 平瀬館跡 | 9. 宮瀬遺跡 |
| 5. 況坂古墳群 | |

第4図 主な周辺遺跡

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の立地と地理的環境

島内遺跡群は梓川扇状地の末端に位置し、調査地周辺は海拔580m、N70°Eの方向に傾斜1000分の10の数値を示す。扇状地による周辺の堆積は、島内小学校の北及び西でN30°~35°E方向を示し、同じく小学校西側の段丘崖の方向(N40°E)にはほぼ一致する。この堆積の方向に沿って自然堤防状の高まりがみられ、現集落がほぼそれに重なっている。集石造構が検出された第3地点はこの自然堤防上の高まりの東の突端部に位置している。周辺の土壤の深さは平均すると40~60cmを測り、島内地区で最も耕土の深い水田地帯となっているが、部分的にはきわめて浅い場所もある。これは自然堤防流の高まりの形成の際に生じた起伏が現在よりも変化に富んでおり、その低地に更に土砂が堆積した結果が表土の深さのちがいとなっているものと理解している。調査地周辺の堆積層の礫種は、チャート、砂岩、粘板岩、砂岩粘板岩のホルンフェルス(数量が多い)、安山岩、花崗岩で、すべて円礫である。これらの礫種はいずれも梓川で採集できる。奈良井川は遺跡周辺の地形には影響を及ぼしてはいない。遺跡周辺の堆積の順序をまとめると、1. 下底の疊層の堆積、2. 自然堤防状の高まりと起伏が生じる、3. 高まりや低部に土砂が堆積し土層の深いところと浅いところができる、4. 梓川の浸食による段丘崖の形成、5. 奈良井川の浸食と段丘崖の形成、という様になろう。

第2節 周辺遺跡

松本市島内地区は、奈良井川右岸の城山山麓と、奈良井川、梓川によって形成される三角地帯の平地に大別することができる。島内遺跡群は、この三角地帯のほぼ中央に位置し、古代においては、安曇郡高家郷の一部であったといわれる。

この地域を時代別にみると、先土器時代には、城山丘陵にある稲干原遺跡山上の尖頭器が古くから知られているが、この1点のみで、他に先土器時代の遺物の出土例は、報告されていない。

縄文時代には、城山山麓に遺跡が散在してみられる。山田・老根田遺跡は、標高865m前後の山腹にあり、勝坂式・加曾利式・堀ノ内式などの土器、石器・打製石斧などの石器、土偶、大珠などを出土している。多くは、中期中頃から後期はじめの遺物である。また、稲干原・長沢日影・下平

瀬河東・八幡原からも土器・石器が出土している。

弥生時代に入ると、本地区の南東に接する城山周辺・宮瀬（銅鐸片出土）で、遺跡・遺物の存在が知られているが、本地区では現在のところ発見されていない。古墳は、城山丘陵に、平瀬泣坂古墳群をはじめとして数基、平地の高松に、高松古墳がある。共に後期の円墳であり、遺物の出土は、ほとんど知られていない。平瀬泣坂古墳群は、城山丘陵の一部が、奈良井川に面して突出した小丘陵にあり、1号墳（坂下1号墳）は土石混交で、径20m・高5m、4号墳（坂下4号墳）は径15m、高3.5m余である。また、平瀬櫛現堂からは、篠ノ井線開通の際に、鏡・刀剣・石製の骨壺などの出土があったことが伝えられている。

奈良・平安時代では、本地区は長らく遺物の出土のないところとされてきたが、平瀬の法住寺、泣坂の経塚などは平安時代初期のものとみられ、また大久保知巳氏の調査により、賀添・宮ノ東・はしご田など、多くの地点の水出地表下20~45cmより、平安後期を中心とした遺物が得られている。本遺跡群も平安時代の遺物が得られた地点の1つである。また、島内山田岡田・岡田田溝周辺は、芥子坊主山一帯から会田盆地一帯にかけて分布する須恵器窯址群の中心の1つで、40基以上の古窯が確認されている。今後の調査により、さらにその数が増加するものと思われ、該期の社会・集落遺跡との関係を考える上で注目すべき地域である。

以上の如く、本地区は、奈良井川右岸の城山山麓を除いて、遺跡の存在が多くは知られていないかった。しかし、採集遺物の増加や、奈良井川左岸の笠賀・神林・島立・新村と続く平地において、水田下より遺跡の発見が相次いでいることからも、本地区においても、今後、遺構の発見が予想される。

参考文献

藤沢宗平他「東筑摩郡・松本市・塩尻市誌」第二巻、歴史上 東筑摩郡・松本市・塩尻市郷土資料編纂会 昭和48年

長野県史刊行会『長野県史 考古資料編』全一巻(1) 遺跡地名表 昭和56年

第3章 調査結果

第1節 調査の概要

集中的に表土を剥いで検出を行った第1～3地点及び土層と遺構確認のために設定したグリット14ヶ所で、調査面積は最終的に2,545m²に達した。遺構は第1地点で溝状のものが3本、第3地点で石積み状の集石と墓址が検出されたにすぎない。遺物は各地点からごく少量の近世陶器類と石製品、古銭が出土している。各地点とグリットについて概観してみたい。

第1地点（第5図）

島内小学校の北に設定し、重機で全面的に水田耕土を除いた地点である。この地点を設定した理由は、島内小学校敷地内の北端でかつて土器類が出たという記録があり、その場所に最も近くかつ僅かに高くなる地形であったためであった。調査方法も住居址などの遺構の拡がりを予想して当初から遺構検出面まで機械力での耕土を行った。ところがII・III区の南半部では地表下20cm程度で砂礫層が現れ、遺構の存在はほとんど考えられない状態となり、北半は溶脱をうけた上が続いていた。II区の北半にトレンチを設定して下部に遺構の存在を追求したが5～10cmで砂礫層に至ってしまった。IV区で東西に走る溝1及び南北の溝2・3を検出したが、いずれも溶脱をうけた暗灰色粘質土層に黒灰色の上が落ち込んだもので耕作に伴う搅乱と判断した。掘ってみるといずれも5cm程度の深さで終り、遺物もなかった。第1地点全体では遺物は中近世の陶器、土師質土器の小破片が少量出土しているだけである。図化できたのは3・6・7の3点にすぎない。

第2地点

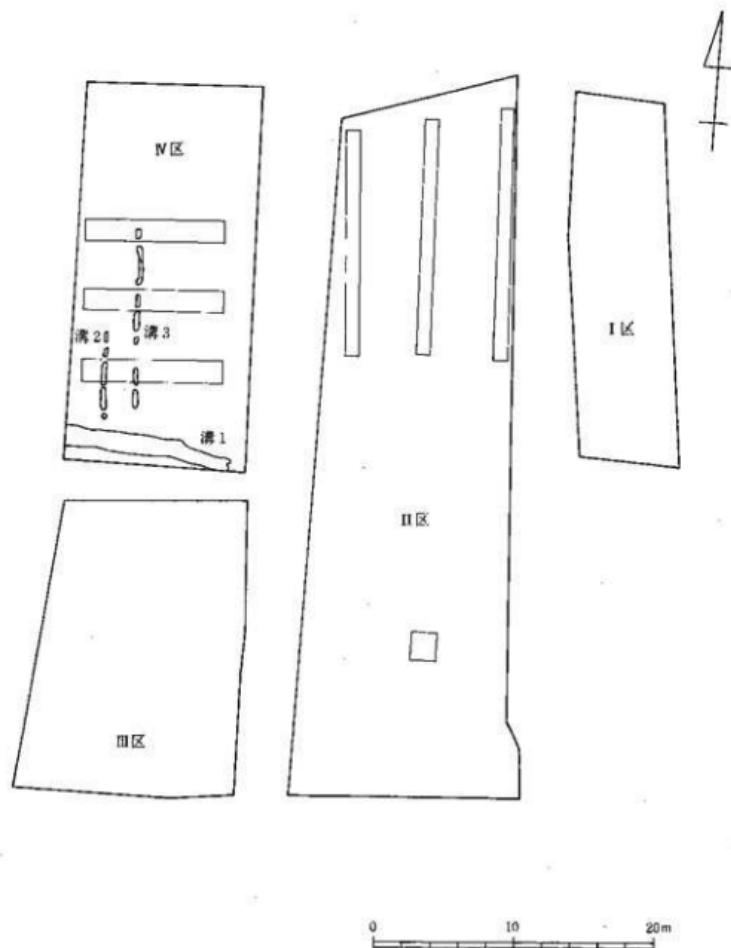
島内小学校の西側にあけたグリットのうちNo.4・7・11を拡張して第2地点I～III区とした。設定の理由はII区の南に隣接する畑一帯で土器の採集があったことによる。しかしながら、結果は、遺構、遺物とも全く発見できなかった。

第3地点

No.18グリットを試掘中に礫群を検出、人為的なものかどうか拡張したところ遺構の可能性が高まり、その周辺一帯を第3地点とした。ここからは後述する墓址に伴う石積み状の集石と若干の遺物が発見された。

各試掘グリット

土層序の確認及び遺構・遺物検出の目的でNo.1～20まで設定した。なんらかの遺構にかかった場



第5図 第1地点全体図

合、周囲を拡張して遺構の性格を探る予定であったが、第3地点の集石に関連したNo.18~20以外は遺構は全く見出せなかった。遺物は近世及び現代のものが少々得られただけである。

第2節 遺構

1、集石（第6図）

第3地点で検出された。中央の墓地（ほ場整備区域外）を取り囲むように、約60×30mの範囲内に礫が集められており、礫は墓地内へも続いているようであった。平面形は、発掘中は範囲が広くまた墓地という障害物があったので捉え難く、後に測量した図面をつなぎ合わせてみたところ、かなりの不整形であることがわかった。集石の端部境界線は北側と南側で明瞭だが、東側は北側との連絡がつかず凹凸のみられる不定形なもので、西側は南側とは直角に曲がるコーナーで連結するが北側との連絡は調査の都合で確認できなかった。西側及び北側のラインを推定すると、西側は南西コーナーから直線的に北へ延び、やはり北側中央の屈曲部から南西方向へ直線的に延びてくるラインと鈍角をつくって北西コーナーを形成している。また北側の東半は、中央の屈曲部から南東方向へ直線で10.4m進んだところからこんどは東北東へ方向を変えて8m、更にそこでコーナーをつくりて東南へ向きをかえ、まっすぐ延びて、南側のラインへ達するものと推定している。断面形についてみると、上面は概して平坦だがこれは耕作により同じ深さまで擾乱をうけ礫が排除されてしまったためのものであろう。側面付近はかなり急な角度で落ち込み、部分的に集石上面より40~50cm下の自然堆積の礫層まで達しているのが観察された。集石に利用されている礫は径5~15cm程の円礫で、端部に比較的大きめの石が使ってあるようだ。この集石の南側の境界ラインに沿って、一部に礫列が走っている。礫列は長さ21.6m、幅は太い所で1mを測るが、下部を調査するため掘り下げたところ北側は集石南側下端部とつながってしまい、集石南側中央部の端部境界線0.5~1m外側に沿って溝が走っているという形になった。

集石上面の礫間から、中近世の陶器類の破片、石製五輪塔片及び古銭1点（寛永通宝）が出土している。

2、墓址

第3地点の集石に隣接して発見された。上面に径10~20cmの石が、直径1.5mくらいの範囲内にまとめられており、その石の下部に直径0.7~0.9mの桶を輪切りにしたような形で、腐った木材が顔を出していた。上面の石の状態等からみて、昭和57年に新村秋葉原遺跡で調査された近世墓址群に通じるものがある。この他、集石東側部分では各所から人骨片が検出され、この部分にも墓が営れていたことが想像された。

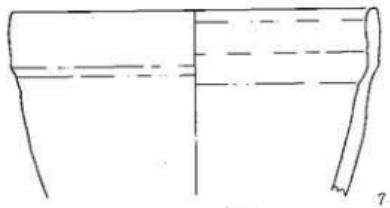
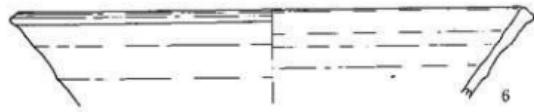
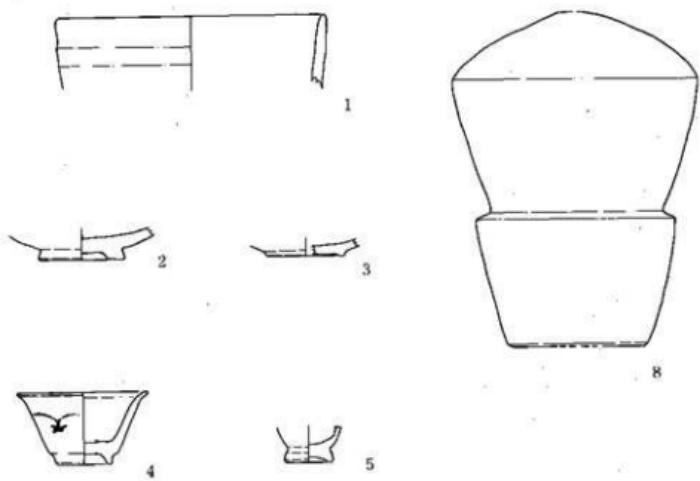
第3節 遺 物

本遺跡より出土した遺物は小破片のものが殆どである。内容としては、擂鉢・神器・茶碗などの中・近世陶磁器（1～6）、内耳壙・皿などの土師質土器（7）、瓦・五輪塔の一部（8）等がある。1は陶器の茶碗である。内外面ともに淡灰緑色の釉が施されており、器壁も厚くしっかりしたものである。2は天目茶碗で高台付近を残すのみである。内外面に明褐色の施釉があり、高台は削り出しによる。高台内面部に釉があること、高台が幅広くしっかりしていることなどから近世期のものと思われる。3は茶碗類である。粗雑な胎土を持ち焼成も不良で、施釉も不完全である。5は白磁の神器である。底部のみの残存の為器形は不明であるが、御神酒德利の類と思われる。削り出し高台であり、胴部外面に白色の釉がかかっている。4は染付の茶碗である。器面が荒れているが当初からのものである。豊付部の幅はまちまちである。内外面ともに白色釉が施されるが、やや粗陋なものである。6は瓷器系の捏鉢である。胎土は青灰色を呈す。口縁部は横方向へつまみ出され灰白色の施釉がある。14世紀代に比定されよう。7は内耳壙である。口縁部は「く」の字状に崩曲しながらやや内寄し、口縁部内側にも縫を残すという特徴がある。ロクロ成形で口縁部内面にロクロによるナデが顕著に認められる。耳の出土はない。外面には煤の附着がある。御社宮司遺跡A I型に含まれ時期もA I型の盛行する14～15世紀に該当すると思われる。8は五輪塔の空風輪である。破損度が大きく、また砂岩製の為表面の風化が著しく、差し込み部及び梵字の有無は全く不明である。

以上の他、小破片の為図示できなかった遺物に対して説明を加える。陶磁器類として、瀬戸系の小皿・灯明皿がある。両者は細かい貢入を持ち胎土も緻密である。美濃系として、擂鉢、急須、青磁碗がある。擂鉢は10本単位の横目を持ち鉄泥が内外面に施されている。大きな気泡を含む胎土である。19世紀頃に比定されよう。急須は胴部下半が張る形と思われ、受口状の端部である。器壁は薄く鉄泥が施されている。体部外面には樹状工具による縱方向の沈線がある。青磁碗は鍋蓬弁のものである。釉は薄く発色の悪い青白濁色を示す。鍋は純く胎土などから国内産と思われる。志野焼は少なく器尚の低い皿の破片が確認されたのみである。染付の茶碗類の破片は多いが現代のものも含まれている。有田焼と思われる小振りの茶碗が少量ある。

土師質土器として皿がある。手捏に近いもので立ち上りの短い内窓する口縁部を有するものと、ロクロ成形を行なう口縁部近くに段を持ちながら外寄するものとがある。その他に平瓦の破片があるが小破片の為詳細は不明である。胎土は緻密であるが焼成は不良である。

当遺跡出土の遺物の概観は以上の通りである。内耳壙・瓷器系の捏鉢の時期を上限とし以降、美濃・瀬戸系のものを中心とした中・近世のものが主流を占める。



0 5 10cm

第7圖 遺物実測図

第4章 調査のまとめ

今回の調査では当初予想された島内小学校周辺の地点からの、平安期の遺構は全く検出されず、第3地点から大規模な積み石状の集石が発見された訳だが、この2つの現象について簡単に触れて調査のまとめとしたい。

まず、予想されながら実際は検出されなかった平安期の遺構について考えたい。以前、島内小学校敷地内の北端部で土器が一括出土し、結局現品は確認できなかったが、どうやら平安期の須恵器のようであった。直接的にはこのことを根拠として小学校周辺の微高地に調査地を設定したのであるが、調査の結果は前述した通り、砂礫層まで浅く遺構は存在していなかった。太田守夫先生の御教示によると、島内小学校南側の校庭一帯も砂礫層まで浅いとのことで、たぶん第1地点南半部に似た七層の様相を呈しているのであろう。以前に出上した土器はいったいどの様な遺構に伴ったものであろうかという疑問が生じる。非常に分散、点在して住居が営まれていたか、新村安塚・秋葉原例のように古墳に類するものの跡があったのか、いづれかの可能性を考えている。

つぎに第3地点の集石であるが、この集石の性格を解明するには、周辺の小字名が参考になった。すなわち、第3地点中央部の墓地と東隣の田が「古御堂」、その南側が「堂前」という小字名をもっており、現在の墓地を中心にして堂宇があったことを物語る小字名なのである。地元の伝承でも、かつてここに「中村」のお堂があったことを伝えるものがあり、中村が北中と南中の両地区に分かれた時に、それぞれの地区に新たに堂が設けられ、元の堂は廃絶したのではないかという推定がなされている。これに従うと、集石は堂の敷地の範囲を示すために積まれたものという性格が想定されてくる。中央部の現在の墓地については、堂に伴っていた墓が、堂の廃絶後も継続されて今に至ったもので、その範囲も当初は堂の敷地が集石の範囲と一致していたものが、堂廃絶後、水田の拡張により今の境界まで追い込まれたものと考えられる。ただし以上のことは発掘の結果と小字名、伝承等から推測したのみで、古文書等の裏づけがなされていない。考古学的な調査の他に、古文献による追究が必要であったが、報告書作成の期間の関係でその方面には全く手がつかなかった。

島内地内の平坦部で本格的な発掘調査が行われたのは今回が初めてであったが、当初の予想とは全く異なる結果で終了した。しかし来年度以降も調査は続くことが予定されており、やがては古代集落の発見も不可能ではないと強く信じている。地元の皆様には次年度以降も一層の御協力をお願いしたい。

最後になりましたが、今回の調査に御理解、御協力を頂きました関係者各位に心からなる感謝の意を表し、お札を申し上げる次第であります。

図 版



1. 11月1日 第1地点表土剥ぎ



2. 11月1日 第1地点表土剥ぎ



3. 11月4日 第1地点遺構検出



4. 11月4日 第1地点遺構検出



5. 11月8日 No17振り下げる。背景は南中公民館



6. 11月8日 No17振り下げる



1. 11月8日 No16掘り下げ



2. 11月9日 No18掘り下げ



3. 11月9日 No19掘り下げ



4. 11月9日 No19掘り下げ



5. 11月9日 No18拡張



6. 11月15日 は場整備起工式



1. 第3地点、霧の朝



2. 11月15日 第3地点、霧の朝



3. 11月17日 第3地点東側



4. 11月18日 第3地点東側、背景は島内精器



5. 12月20日 発掘器材撤収



6. 12月20日 発掘器材撤収、背景は島内精器



1. 第3地点全景、背景は島内小学校



2. 第3地点南側境界



3. 第3地点集石、南西隅コーナー



4. 第3地点集石、南側境界ライン



5. 第3地点集石、東側部分



6. 第3地点墓址

松本市文化財調査報告No.31

—松本市島内遺跡群緊急発掘調査報告書—

昭和59年3月20日 印刷

昭和59年3月31日 発行

発行 松本市教育委員会

印刷 は お ず き 書 繕 部
